

—臨 床—

新潟県中越地区における病院歯科の実態調査

— アンケート集計結果より —

堀野 一人 大西 真* 位下 真一** 笠井 郁雄***

新潟県立吉田病院歯科口腔外科

*長岡赤十字病院歯科口腔外科

**新潟県厚生連組合中央総合病院歯科口腔外科

***立川総合病院歯科

Key words: hospital dentistry (病院歯科), questionnaire (アンケート調査)

要 旨

われわれは、平成元年に発足した中越病院歯科協議会の会員を対象に、これからの病院歯科の方向性を見いだすべくアンケート調査を行った。17名の会員に対して以下の質問を行った。1)病院の内容、規模について。2)歯科の施設、患者について。3)歯科医師個人について。4)歯科診療について。5)病院歯科の存在意義と中越病院歯科協議会への要望について。

回収された88%の回答について検討した結果、1)病院歯科は比較的大規模な病院に設置されており、2)デンタルスタッフは施設あたり平均4.6名で、有病者である患者が多かった。3)保存科出身で30歳台の歯科医師が多く、4)歯科医師一人当りの月平均医療収入は、20~40万点未満が全体の77.0%であった、などの結果が得られた。

緒 言

近年、有病者人口の増加により、全身を対象とした包括的歯科医療が要求され、二次医療機関としての病院歯科の果たす使命は大きくなりつつある。しかし、昨今の医療界をとりまく環境は厳しいものがあり、かつ、病院内における歯科のおかれている現況は必ずしも恵まれたものとは言い難い。そこで、われわれは平成元年、新潟県中越地区における病院歯科の発展を期し、中越病院歯科協議会を発足させた。今回、当協議会会員を対象として、これからの病院歯

科の進むべき方向性を見いだすべく病院歯科の実態調査を行ったのでその概要を報告する。

調査対象及び方法

調査対象は中越病院歯科協議会加入の14病院、17名歯科医師とした。実施方法はアンケート形式による無記名、郵送回答とし、調査期間は平成4年10月1日から11月30日とした。

アンケート内容

アンケートの内容は以下に示す5項目で、計32設問とした。

1. 病院の内容, 規模について (7 設問)
2. 歯科の施設, 患者について (9 設問)
3. 歯科医師個人について (11設問)
4. 歯科診療について (3 設問)
5. 病院歯科の存在意義と当協議会への要望 (2 設問)

回収結果

有効回収数は13病院(回収率93%), 15名歯科医師(回収率88%)であった。

集計結果および考察

1. 病院の内容, 規模について

(1) 診療科数, 病床数 (図1)

標榜診療科は3科~23科にわたり, 平均12.8科であった。約7割が15科未満であり, 15科以上の病院では麻酔科, 脳外科が, また, 20科以

○診療科目数

10未満 (30.8)	10~15未満 (38.5)	15~20 (15.4)	20~ (15.4)
----------------	-------------------	-----------------	---------------

15科以上: 麻酔科・脳外科

20科以上: 胸部外科

○病床数

~200 (15.4)	201~400 (38.5)	401~600 (38.5)	601~ (7.7)
----------------	-------------------	-------------------	---------------

○1日平均外来患者数

~400名 (15.4)	401~800名 (46.2)	801~1200名 (23.1)	1201名~ (15.4)
-----------------	--------------------	---------------------	------------------

○1日平均入院患者数

~100名 (7.7)	101~200名 (30.8)	201~300名 (15.4)	301~400名 (30.8)	401名~ (15.4)
----------------	--------------------	--------------------	--------------------	-----------------

() %

図1

上では胸部心臓外科が設置されていた。病床数では最小54床, 最大668床, 平均339.2床であり, 201床~600床を有する病院が約8割を占めた。杵渕ら¹⁾が1988年に115施設を調査した際には平均503.3床であり, また, 1990年に寶田ら²⁾が398施設から回答を得た調査では平均383床であった。いずれにせよ, 比較的大規模な病院に歯科が設置されている傾向にあった。

(2) 1日平均患者数 (図1)

1日平均外来患者数は半数近くの病院が401名~800名で, 平均811.2±452.6名であった。

1日平均入院患者数は100名台と300名台がそれぞれ30.8%を占め, 平均295.9±160.3名であった。

(3) 医師(歯科医師)数 (図2)

医師(歯科医師)数は4名から73名にわたり, 平均29.2名であった。歯科医師が2名以上の病院は2施設で, 歯科医師のみの平均は1.2名であった。

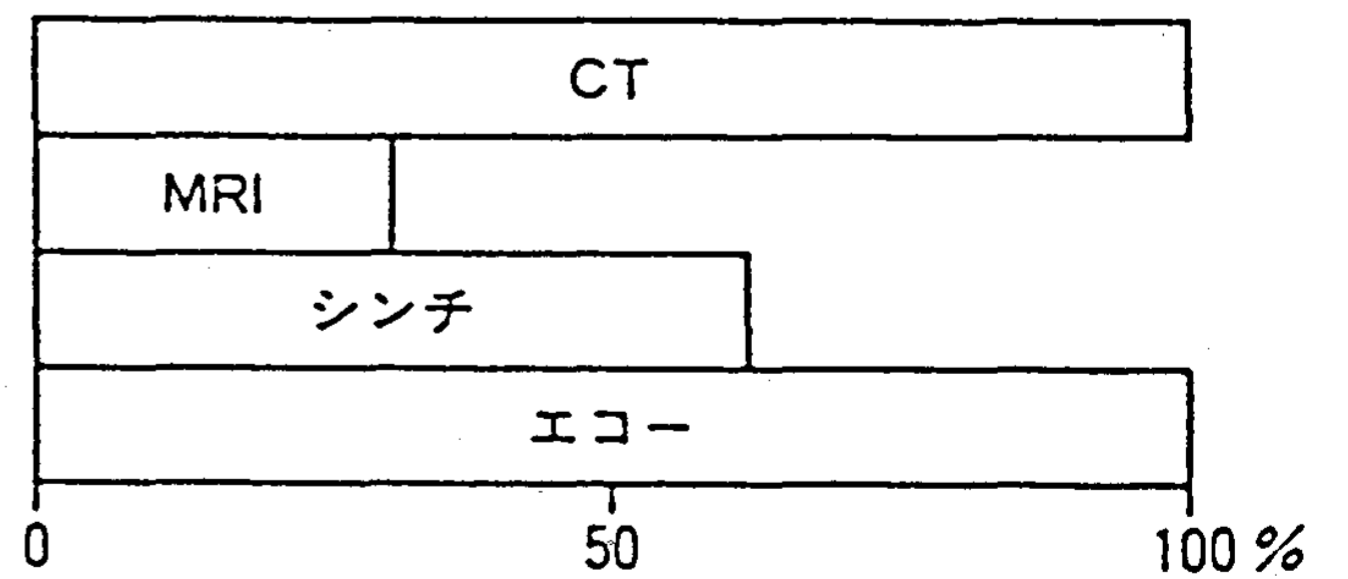
○医師(歯科医師)数

~10名 (15.4)	11~30名 (53.8)	31~50名 (7.7)	51名~ (23.1)
----------------	------------------	-----------------	----------------

○救急指定病院告示

有 (61.5)	無 (38.5)
----------	----------

○共有設備(画像診断装置)



() %

図2

(4) 救急指定告示および病院内共有設備 (図2)

救急指定病院告示は8施設 (61.5%) が受けており, 杵渕ら¹⁾の調査の60.9%とほぼ同じレベルであった。

共有設備の1つである画像診断装置はCTおよびエコーが100%の保有率であり, シンチグラフィが8施設 (61.5%), MRIが4施設 (30.8%) であった。

2. 歯科の施設, 患者について

(1) 院内標榜科, 歯科研究室, ユニット台数 (図3)

院内標榜科名は「歯科」が8施設 (61.5%), 「歯科口腔外科」が5施設 (38.5%) であった。寶田ら²⁾は「歯科」が74.0%, 「歯科口腔外科」が25.3%と報告しており, われわれの結果と近似であったが, 杵渕ら¹⁾は「歯科口腔外科」が52.8%, 「歯科」が28.8%で, 病院では歯科口腔外科の標榜が最も一般的であるとしている。杵渕らの調査対象は日本病院歯科口腔外科協議会の会員を有する施設であり, かつ, 当協議会は社団法人日本口腔外科学会の指定研修機関がその設立母体となっているためと考えられた。

○院内標榜科名

歯科 (61.5)	歯科口腔外科 (38.5)
--------------	------------------

○歯科研究室

個室 (13.3)	2~3人部屋 (73.3)	4人以上 (13.3)
--------------	------------------	----------------

○歯科医師1人当りユニット台数

2台 (15.4)	2.5台 (15.4)	3台 (46.2)	4台 (15.4)	5台 (7.7)
--------------	----------------	--------------	--------------	-------------

() %

図3

歯科医師の研究室は2~3人部屋が73.3%で, ほとんどが他科の医師と共有部屋であった。

歯科医師一人当りの外来診療ユニット台数は平均3.1台であった。

(2) 診療スタッフ (図4)

歯科医師は11施設 (84.6%) が一人医長であり, 非常勤歯科医師は週に1日派遣されるケースが最も多かった。

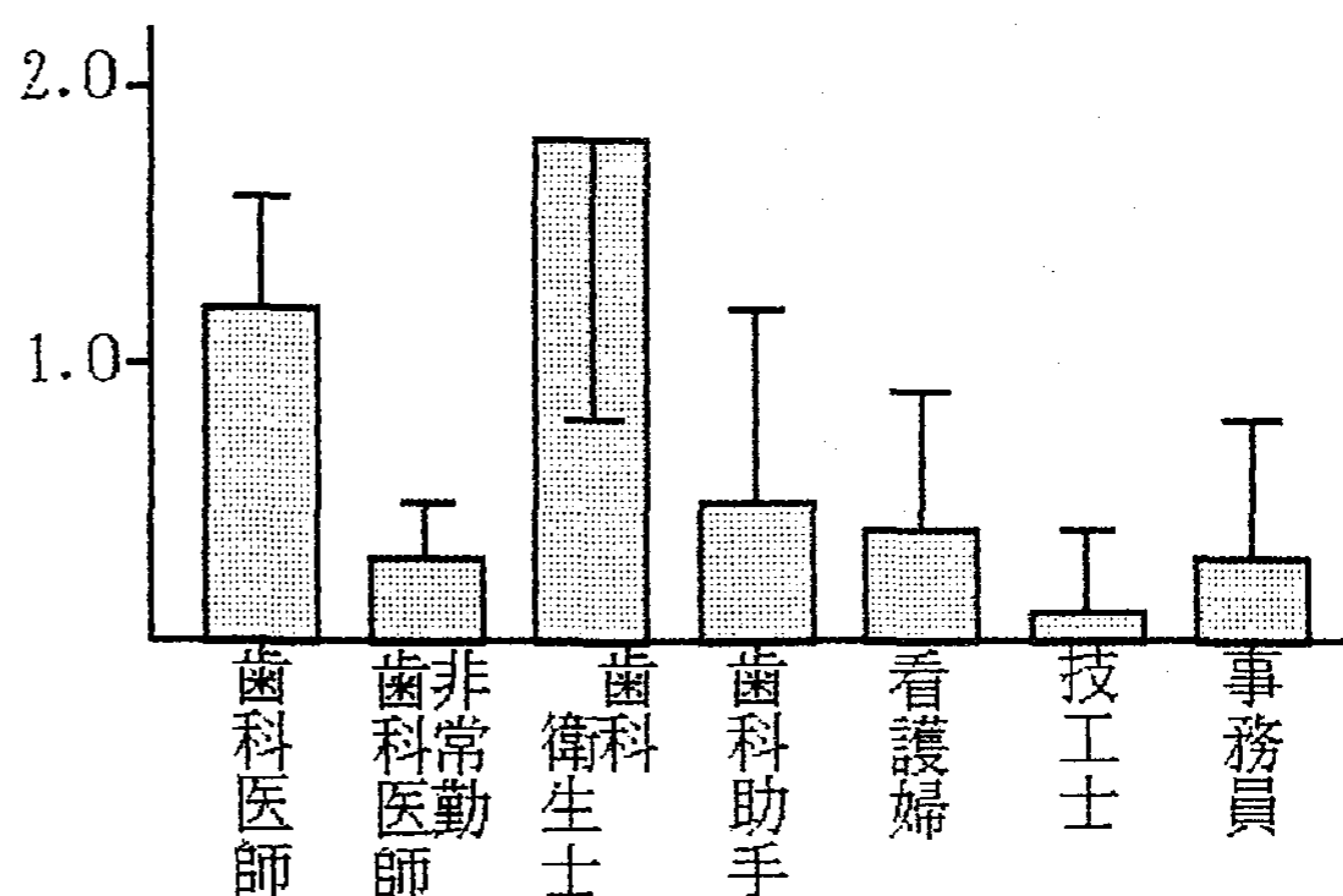
デンタルスタッフの内訳は図4に示すごとくで, 常勤歯科医師1.2±0.4名, 非常勤歯科医師0.3±0.2名, 歯科衛生士1.8±1.0名, 歯科助手0.5±0.7名, 看護婦0.4±0.5名, 技工士0.1±0.3名, 事務員0.3±0.5名であった。歯科衛生士はすべての施設において雇用されており, また, すべてのスタッフを合計すると4.6名であった。杵渕ら¹⁾の10.0名, 寶田ら²⁾の9.0名と比較すると約半分であるが, 歯科医師一人当りのスタッフ数は2.8名であり杵渕らの2.7名とほぼ同じであった。しかし, 寶田らは4.3名とやや多い結果であった。

スタッフの勤務能力に対しては8割の歯科医師が満足していた。

(3) 外来患者及び入院取り扱い (図5)

歯科医師一人当りの1日平均外来患者数は

診療スタッフ < 職種と平均人数 >



○診療スタッフの勤務能力・態度

満足 (20.0)	ほぼ満足 (60.0)	不満 (20.0)
--------------	----------------	--------------

() %

図4

26~30名が38.5%と最も多く、寶田ら²⁾の約20名という結果よりやや多かった。月平均の新患者数は寶田ら²⁾の99.0名に対し、53.1名と少数であった。しかし、歯科医師一人当りに換算すると寶田ら²⁾の58.2名に対し、44.3名と差が小さくなった。

外来患者構成をみると、治療対象の30%以上を入院患者で占めている施設が23%にみられた。

外来患者の特色としては外来患者構成からも推察されるように有病者が多いと回答した施設

○歯科医師1人当たり1日平均外来患者数

16 ~ 20 名 (7.7)	21 ~ 25 名 (7.7)	26~30名 (38.5)	31~35名 (23.1)	36~40名 (23.1)
-----------------------------	-----------------------------	------------------	------------------	------------------

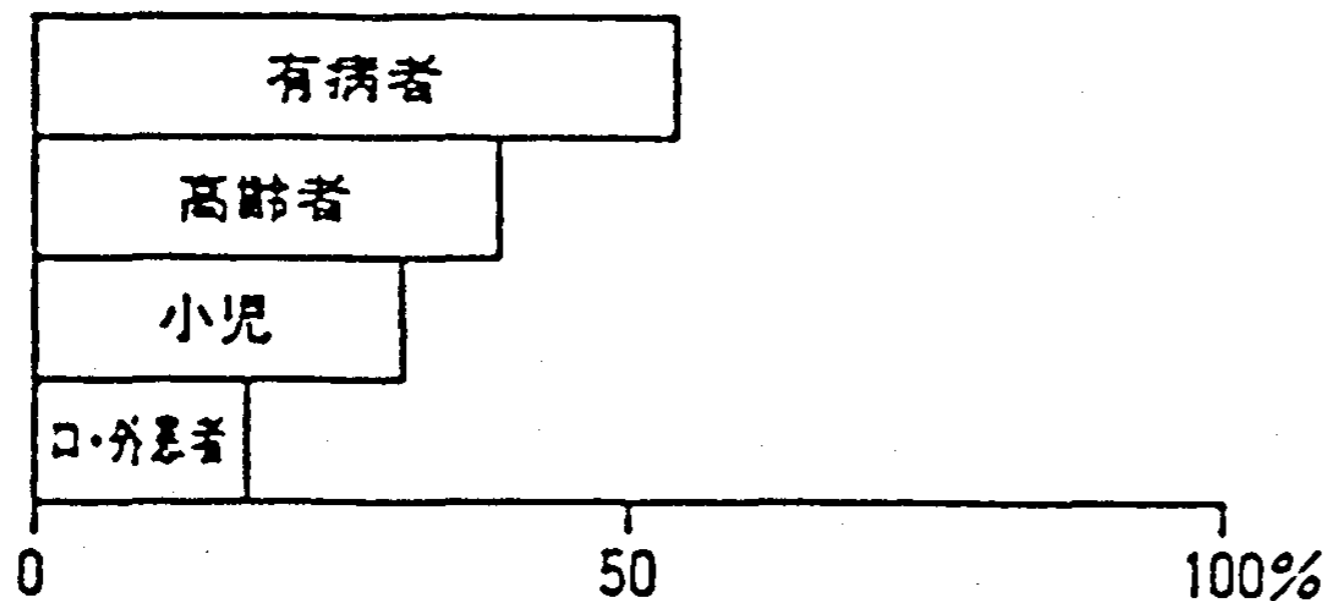
○月平均新患者

16~20名 (15.4)	21~40名 (30.8)	41~60名 (30.8)	61 ~ 80 名 (7.7)	81 ~ 100 名 (7.7)	141 ~ 150 名 (7.7)
------------------	------------------	------------------	-----------------------------	------------------------------	-------------------------------

○外来患者構成

一般外来患者<70%以上> (76.9)	入院患者<30%以上> (23.1)
-------------------------	-----------------------

○外来患者の特色(複数回答)



○歯科入院取扱い(年間)

~20名 (38.5)	21 ~ 50 名 (7.7)	51 ~ 80 名 (7.7)	81 名 ~ (7.7)	無 (38.5)
----------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------	-------------

() %

図5

が過半数を占めた。病院歯科の使命として当然の結果と考えられた。

年平均の入院件数は30.0±35.9件で、全体の61.5%の施設で歯科入院を取り扱っていた。杵渕ら¹⁾の68.8件、寶田ら²⁾の約40件に比較すると、やはり少ない傾向であった。件数もさることながら、入院を取り扱う施設が約6割であることから鑑みるに、二次医療機関としての病院歯科の使命を十分に果たしているとは言い難い。

3. 歯科医師個人について

(1) 年齢, 出身科及び年収 (図6)

歯科医師の年齢は30歳台が過半数を占め、次いで40歳台であり、20歳台は1名であった。大学出身科は保存科40.0%、口腔外科26.7%、補綴科20.0%であった。杵渕ら¹⁾の報告に比較し、「口腔外科」の割合が少ない点に関しては、各病院歯科が、新潟大学歯学部創設以来、歯学部各科の関連病院として位置づけられているため

○歯科医師の年齢

20 歳 台 (4.7)	30~34歳 (26.7)	35~39歳 (33.3)	40~44歳 (20.0)	45~54歳 (13.3)
-----------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

○大学出身科

保存科 (40.0)	補綴科 (20.0)	口腔外科 (26.7)	その他 (13.3)
---------------	---------------	----------------	---------------

○年収(税込み) 単位: 100万円

8~10 未満 (13.3)	10~12未満 (40.0)	12~14 未満 (13.3)	14~16未満 (26.7)	無回答 (4.7)
----------------------	-------------------	-----------------------	-------------------	--------------

○診療内容に対する報酬の満足度

満足 (20.0)	ほぼ満足 (73.3)	不満 (4.7)
--------------	----------------	-------------

() %

図6

と考えられた。

税込み年収は1000～1200万円が40.0%と最も多く、次いで1400～1600万円が26.7%を占め、また、その年収に対し、90%以上の歯科医師が妥当としていた。

(2) 学会出張および歯科医師会 (図7)

学会出張に関しては出張費の支給はすべての施設において認められ、その額は年間10～15万円を限度とする施設が53.3%で、次いで20万円を限度とする施設が26.7%であった。

地域歯科医師会には個人、病院いずれかで86.7%が入会していた。

(3) 医師、歯科医師との交流 (図7)

病院内における他科の医師との交流は「多い」

が26.7%、「普通」が66.7%と比較的スムーズなのに対し、地域開業歯科医師との交流は「全くない」が20.0%、「少ない」が33.3%と消極的な傾向にあった。院内での他科医師との交流は前述したように、医局の研究室が多人数部屋であるということが良い結果を生んでいると考えられた。

(4) 開業について (図7)

将来的に開業の意志をもっている者が13.3%、開業の意志が全くない者が20.0%であった。それ以外の66.7%、すなわち過半数が「わからない」という回答であった。

4. 歯科診療について (図8)

(1) 月平均医療収入

外来と入院を合わせた、自費診療を含む、歯科医師一人当りの月平均医療収入は20～30万点未満が一番多く46.2%を占め、20～40万点未満が全体の77.0%であった。全医療収入の中で自費診療の占める割合は0～25%とさまざまであった。杵渕ら¹⁾、寶田ら²⁾の報告では収支バランスはどちらかといえば赤字であるとする回答が多いとしているが、歯科の診療体系からみて、

○学会出張費支給額(年間)

～5万 (13.3)	10～15万 (53.3)	20万 (26.7)	30万 (7.7)
---------------	------------------	---------------	--------------

○歯科医師会入会の有無

無 (13.3)	県病院 (40.0)	県個人 (26.7)	都市病院 (20.0)
-------------	---------------	---------------	----------------

○他科の医師との交流

多い (26.7)	普通 (66.7)	少ない (7.7)
--------------	--------------	--------------

○地域開業医との交流

普通 (46.7)	少ない (33.3)	全くない (20.0)
--------------	---------------	----------------

○開業の意志

全くない (20.0)	将来的希望 (13.3)	わからない (66.7)
----------------	-----------------	-----------------

() %

図7

○歯科医師1人当り月平均医療収入

(保険点数に換算)

20～30万点未満 (46.2)	30～40万点未満 (30.8)	40万点～ (15.4)
---------------------	---------------------	-----------------

○新患のwaiting systemの有無

有 (2～3ヶ月) (23.1)	無 (76.9)
------------------------	-------------

○非緊急の予約外患者(再来)の取扱い

再予約 (46.2)	当日随時診療 (53.8)
---------------	------------------

() %

図8

常勤歯科医師数がある人数を越えると一人当りのユニット稼働台数およびコデンタルスタッフの数が減少し、医療収入の低下を招くことも考えられる。

(2) 新患、急患の取り扱い

緊急を要さない場合の新患のWaiting systemの有無については23.1%の施設で「有り」としており、その期間は8～12週間であった。また、緊急を要さない予約外再来患者の取り扱いについては、過半数の施設で何らかの形で当日中に診療を行っていた。

5. 病院歯科の存在意義と当協議会への要望

存在意義については記述式で複数回答を得たが、それらを要約すると以下の4点に集約された。

- ・他科と連携した有病者、高齢者、障害者の歯科医療
- ・地域基幹病院として大学病院に準じた高度専門医療
- ・開業医との交流を強化し、開かれた施設
- ・研究、営利目的でなく、純粹に患者サイドに立った医療

また、同様に記述式で回答してもらった当協議会への要望を要約すると以下の3点に集約された。

- ・会の一員、また病院歯科医としての自覚向上のための検討会の企画
- ・症例検討会、討論会などの開催
- ・救急患者に対する病院間の連絡網の確立

結 語

厚生省健康政策局総務課編の病院要覧1992年版³⁾および歯科統計資料集1991, 1992年版⁴⁾から

算出すると、平成2年10月1日現在で、10096の病院があり、その18.5%に当る1871の病院に歯科が併設されている。今後の機能分担が必要な歯科界において一つの勢力を担うであろう病院歯科も現在のところ一般的に認められた存在とは言い難い。また、それぞれの病院内においても厳しい現況におかれていることは論をまたない。このような状況を少しでも改善できることを願い、われわれは平成元年、新潟県中越地区病院歯科協議会を発足させた。この気運が全国的に拡大し、病院歯科の地位の向上が図られることを強く希望する次第である。

本論文の要旨は第31回日本口腔外科学会北日本地方会（平成5年4月16日、福島）において発表した。

引 用 文 献

- 1) Takao Kinebuchi, Hiroshi Takarada, et al. Hospital dentistry and oral-maxillofacial surgery in Japan; Present situation of facilities and manpower (アンケート調査に基づく我国の病院歯科口腔外科の運営実態に関する報告) Hosp. Dent. 1: 48-55 1989.
- 2) 寶田 博, 白川正順, 他: わが国における病院歯科の実態調査 —アンケート調査結果からみて— 日本歯科医師会雑誌 45: 549-555, 1992.
- 3) 厚生省健康政策局総務課編: 病院要覧1992年版, 医学書院, 東京, 1992.
- 4) 歯科統計資料集1991. 1992年版, 口腔保健協会, 東京, 1991.

A Questionnaire Study on Hospital Dentistry in the Chuetsu Area of Niigata Prefecture

Kazuhito HORINO, Makoto OHNISHI*,
Shin-ichi IGE**, and Ikuo KASAI***

Department of Dentistry and Oral Surgery, Niigata Prefectural Yoshida Hospital

**Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagaoka Red Cross Hospital*

***Department of Dentistry and Oral Surgery, Nagaoka Chuoh Hospital*

****Department of Dentistry, Tachikawa General Hospital*

Abstract

In order to study the future prospect of dental sections in general hospitals, questionnaires were sent to 17 dentists of 14 hospitals who were the members of the Society of Hospital Dentistry in the Chuetsu area of Niigata prefecture that was established in 1989. They consisted of 32 questions on the outline of hospital (number of departments, beds, staff members, patients etc), the outline of dental section (number of dentists and other staff, dental units, patients etc), the personal background of dentists (curriculum vitae, annual income, academic and social activities etc), the details of dental service and the future prospect of Hospital Dentistry and the Society. Fifteen (88%) questionnaires were returned with answers available for analysis. Dental sections were instituted in relatively large, well-equipped hospitals. Each section had 4.6 persons as dental staff on average, and many of patients treated had a variety of systemic diseases. Most of dentists were in the fourth decade of life majoring in conservative dentistry (operative dentistry, endodontics and periodontology). Seventyseven percent of them were scoring 200-400 thousand points per month for their dental services.